

テーマ	中間試験						
学籍番号	/	/	/	/	/	氏名	

1. 次の資料に基づき、一連の取引について仕訳を示しなさい。なお、仕訳で使用する勘定科目は次のものとする。

【勘定科目】

材料 買掛金 材料副費 諸口 材料副費配賦差異

- (1) 経法製作所は、八尾商事より A 材料 500kg (@1,200 円)、B 材料 250kg (@800 円) を掛けて購入した。材料副費については、費目別予定配賦により購入原価に含める。なお、支払運賃年間予算額は 300,000 円、検収費年間予算額は 200,000 円、年間予定購入数量は A 材料、B 材料あわせて 10,000kg、年間購入代価は 10,000,000 円である。支払運賃は購入代価、検収費は購入数量を配賦基準とする。
- (2) 材料副費の実際発生額は 28,000 円であった（貸方科目は諸口でよい）。
- (3) 材料副費の予定配賦額と実際発生額との差額を、材料副費配賦差異勘定へ振り替えた。

2. 次の資料に基づき、一連の取引について仕訳を示しなさい。なお、仕訳で使用する勘定科目は次のものとする。

【勘定科目】

材料 仕掛品 買掛金 製造間接費 材料受入価格差異

【資料】

月初材料数量：400kg

当月材料購入量：3,500kg（実際価格@¥540 で掛けて購入）

当月材料消費量：3,650kg（すべて直接材料）

なお、当社は材料購入時に予定価格（@¥550）で受入記帳している。

また、当月において棚卸減耗は生じていない。

- (1) 購入に関する仕訳
 (2) 消費に関する仕訳

3. 次の一連の取引について、八尾工場の仕訳を示しなさい。なお、仕訳で使用する勘定科目は次のものとする。

【勘定科目】

材料 仕掛品 部品 買掛金 製造間接費
 外注加工賃 現金

- (1) 金属部品を製造している八尾工場では花岡製作所に@1,000 円でメッキ加工を依頼し、金属板 3,000 枚（原価@2,500 円）を無償で支給した。
- (2) 花岡製作所から加工品が納品され、外注加工賃の請求書を受け取った。
- (3) 納品された加工品を直ちに部品倉庫へ搬入した。
- (4) 外注加工賃を現金で支払った。

テーマ	中間試験						
学籍番号	/	/	/	/	/	氏名	

4. 次の資料に基づき、10月の賃金勘定、賃率差異勘定の記入を行いなさい。

【資料】

- ① 当社の賃金計算期間は 21 日から翌月 20 日としている。
- ② 当月の直接工賃金支払総額は 5,452,000 円（現金払い）、前月末払額は？円、当月未払額は？円であった。
- ③ 当月の直接工の就業時間の内訳は次のとおりである。

	定時間内作業時間	定時間外作業時間
10/21～10/31	700 時間	0 時間
11/1～11/20	2,800 時間	0 時間
11/21～11/30	900 時間	60 時間

- ④ 当月の直接工の作業時間の内訳は次のとおりである。

直接作業時間	3,400 時間
間接作業時間	320 時間
手待時間	40 時間
合計	3,760 時間

- ⑤ 当社では直接工賃金消費額を予定賃率@1,400 円で計算する。なお、定時間外作業手当は予定賃率の 25%に定時間外作業時間を掛けて計算し、製品原価計算上、間接労務費として処理する。
- ⑥ 直接工の前月末払額、当月未払額は計算を簡便にするために予定賃率により計上する。
- ⑦ 当月の間接工賃金支払総額は 2,950,000 円、前月末払額は 500,000 円、当月未払額は 600,000 円であった。

5. 次の資料に基づき、(1) 月間基準操業度、(2) 予定配賦率、(3) 当月の予定配賦額、(4) 予算差異、(5) 操業度差異を計算しなさい。

【資料】

- ① 当工場には機械設備が 4 台あり、1 日 3 交代制で 24 時間稼働させている。
- ② 年間稼働日数は 240 日、年間の不可避的な作業休止時間は 2,040 時間である。
- ③ 当工場では機械稼働時間を配賦基準として製造間接費の予定配賦を行っている。なお、製造間接費予算は実際の生産能力に基づいて算定している。
- ④ 製造間接費予算は公式法変動予算により設定しており、年間変動費予算額は 1,470,000 円、年間固定費予算額は 3,780,000 円である。
- ⑤ 当月の実際機械稼働時間は 1,680 時間、実際発生額は 438,400 円であった。

テーマ	中間試験							
学籍番号							氏名	

6. 次の資料に基づき、保守部門勘定、予算差異勘定の記入を行いなさい。

【資料】

- ① 当工場の原価部門は、製造部門として切削部門と組立部門の 2 つがあり、補助部門として保守部門がある。
- ② 当工場では、保守部門費の変動費については予定変動比率にサービス実際消費量を掛けた金額を配賦し、固定費については予算額をサービス消費能力の割合で配賦している。
- ③ 月間の保守部門サービスの予定消費量は 400 時間で、保守部門費予算は変動費予算額が 800,000 円、固定費予算額が 1,920,000 円である。またサービス消費能力は 500 時間（切削部門、組立部門ともに 250 時間）である。
- ④ 当月の保守部門実際発生額は 2,688,000 円であった。
- ⑤ 製造部門のサービス実際消費量は 370 時間で、そのうち切削部門が 210 時間、組立部門が 160 時間である。

7. 次の資料に基づき、指図書別原価計算表を作成するとともに、仕掛品勘定の記入を行いなさい。

【資料】

- ① 当月の生産状況：
 - No.100 を製造着手したが、一部仕損になったため、補修指図書No.100-2 を発行した。
 - No.200 を製造着手したが、全部が仕損になったため、代品製作指図書No.200-2 を発行した。
 - No.300 を製造着手したが、一部が仕損になったため、代品製作指図書No.300-2 を発行した。

② 当月の指図書別消費量

	No.100	No.200	No.300	No.100-2	No.200-2	No.300-2
直接材料	80kg	60kg	50kg	14kg	60kg	16kg
直接作業時間	44 時間	36 時間	30 時間	4 時間	40 時間	8 時間

- ③ 直接材料費は予定価格@600 円、直接労務費は予定賃率@1,300 円、製造間接費は直接作業時間を基準として予定配賦を行う。なお、予定配賦率は@1,400 円である。
- ④ No.200 に関して生じた仕損費には、総額 8,800 円の売却処分価額が見積もられた。
- ⑤ 仕損費の処理については、No.200 に関する仕損費は異常仕損費とし、それ以外については該当する指図書に直課する。
- ⑥ No.200 に関する代品は未完成であるが、それ以外はすべて完成した。

8. 部門別個別原価計算を採用している経法工業の 10 月の製造活動に関する次の資料に基づき、指図書別原価計算表、A 製造部門勘定及び動力部門勘定への記入を行いなさい。

【資料】

- (1) 当社の工場には、A 製造部門と B 製造部門という 2 つの製造部門と、動力部門と事務部門という 2 つの補助部門が設けられている。
- (2) 当月の指図書別直接材料消費量は次のとおりであった。なお、材料の消費額は予定価格@280 円で計算している。

	No.101	No.201	No.301
実際消費量	—	950kg	700kg

テーマ	中間試験						
学籍番号	/	/	/	/	/	氏名	

(3) 直接工の消費賃金（すべて直接労務費）については、部門別予定賃率を用いて算定されている。

① 予定賃率に関するデータは次のとおりである。

	年間賃金予算額	年間予定就業時間
A 製造部門	¥4,500,000	10,000 時間
B 製造部門	¥2,730,000	7,000 時間

② 当月の指図書別の直接作業時間は次のとおりである。

	No.101	No.201	No.301
A 製造部門	210 時間	350 時間	190 時間
B 製造部門	120 時間	270 時間	100 時間

(4) 製造間接費は部門別計算により、直接作業時間を基準として予定配賦を行う。また、補助部門費の予算の配賦に関しては、複数基準・階梯式配賦法により、変動費については予定変動費率に予定消費量を掛けた金額を配賦し、固定費については予算額を消費能力の割合で配賦する。

① 各部門の月額予算（部門共通費配賦後）

	A 製造部門	B 製造部門	動力部門	事務部門
変動費	¥190,400	¥116,600	¥112,000	—
固定費	¥187,000	¥96,000	¥117,000	¥105,000

② 補助部門の提供するサービスの消費能力

	A 製造部門	B 製造部門	動力部門	事務部門
動力部門	8,000kwh	7,500kwh	—	—
事務部門	30 人	25 人	15 人	—

③ 補助部門の提供するサービスの予定消費量と実際消費量

	A 製造部門	B 製造部門
動力予定消費量	7,200kwh	6,800kwh
動力実際消費量	7,000kwh	6,500kwh

④ 製造部門の基準操業度（月間）は、A 製造部門が 800 直接作業時間、B 製造部門は 600 直接作業時間である。

⑤ 各部門の実際発生額（部門共通費配賦後）

	A 製造部門	B 製造部門	動力部門	事務部門
実際発生額	¥354,500	¥190,000	¥232,500	¥105,000

(5) 指図書No.101 は前月から繰り越されたものであり、月初仕掛品原価は 310,000 円である。指図書No.201 とNo.301 は当月着手したものである。

(6) 指図書No.101 とNo.201 は当月中に完成し、顧客への引渡しも完了している。No.301 は月末時点で仕掛中である。

テーマ	中間試験					
学籍番号	/	/	/	/	/	氏名

1.

	借方		貸方	
(1)	材料	839,000	買掛金 材料副費	800,000 39,000
(2)	材料副費	28,000	諸口	28,000
(3)	材料副費	11,000	材料副費配賦差異	11,000

2.

	借方		貸方	
(1)	材料	1,925,000	買掛金 材料受入価格差異	1,890,000 35,000
(2)	仕掛品	2,007,500	材料	2,007,500

3.

	借方		貸方	
(1)	仕訳なし			
(2)	外注加工費	3,000,000	買掛金	3,000,000
(3)	部品	10,500,000	材料 外注加工費	7,500,000 3,000,000
(4)	買掛金	3,000,000	現金	3,000,000

テーマ	中間試験					
学籍番号	/	/	/	/	/	氏名

4.

賃 金		(単位：円)	
当月支払額	(8,402,000)	前月未払額	(1,480,000)
当月未払額	(1,965,000)	仕掛品	(4,760,000)
		製造間接費	(3,575,000)
		賃率差異	(552,000)
	<u>(10,367,000)</u>		<u>(10,367,000)</u>

賃率差異		(単位：円)	
賃 金	(552,000)		

5.

(1)	1,750	時間
(2)	250	円/時間
(3)	420,000	円
(4)	5,800	円 (不利・有利)
(5)	12,600	円 (不利・有利)

6.

保守部門		(単位：円)	
実際発生額	2,688,000	切削部門	(1,380,000)
		組立部門	(1,280,000)
		予算差異	(28,000)
	<u>(2,688,000)</u>		<u>(2,688,000)</u>

予算差異		(単位：円)	
保守部門	(28,000)		

テーマ	中間試験					
学籍番号	/	/	/	/	/	氏名

7.

	No.100	No.200	No.300	No.100-2	No.200-2	No.300-2
直接材料費	48,000	36,000	30,000	8,400	36,000	9,600
直接労務費	57,200	46,800	39,000	5,200	52,000	10,400
製造間接費	61,600	50,400	42,000	5,600	56,000	11,200
合計	166,800	133,200	111,000	19,200	144,000	31,200
評価額	-	△8,800	-	-	-	-
仕損費	19,200	△124,400	31,200	△19,200	-	△31,200
製造原価	186,000	0	142,200	0	144,000	0
備考	完成	非原価	完成	No.100 ^	月末仕掛中	No.300 ^

仕掛品

材 料	(168,000)	製 品	(328,200)
賃 金	(210,600)	損 益	(124,400)
製造間接費	(226,800)	評 価 額	(8,800)
		次 月 繰 越	(144,000)
	<u>(605,400)</u>		<u>(605,400)</u>

テーマ	中間試験			
学籍番号	/	/	/	氏名

8.

指図書別原価計算表

(単位：円)

摘要	No.101	No.201	No.301	合計
月初仕掛品原価	310,000	—	—	310,000
直接材料費	—	266,000	196,000	462,000
直接労務費	141,300	262,800	124,500	528,600
製造間接費				
A 製造部門	144,900	241,500	131,100	517,500
B 製造部門	74,400	167,400	62,000	303,800
製造原価	670,600	937,700	513,600	2,121,900
備考	完成	完成	仕掛中	

A 製造部門

(単位：円)

製造間接費	354,500	仕掛品	(517,500)
動力部門	(128,000)	操業度差異	(19,000)
事務部門	(45,000)		
予算差異	(9,000)		
	<u>(536,500)</u>		<u>(536,500)</u>

動力部門

(単位：円)

製造間接費	232,500	A 製造部門	(128,000)
事務部門	(22,500)	B 製造部門	(119,500)
		予算差異	(7,500)
	<u>(255,000)</u>		<u>(255,000)</u>